

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第129号

平成25年(2013)12月発行

発行・事務局

◎ 荏原第一地域センター ◎

小山 3-22-3 (〒142-0062)

tel 3786-2000

fax 3786-5385

花めぐり

ピラカンサ

ピラカンサは、バラ科の花で、名前はギリシャ語で「炎」を意味するpyroと「棘」を意味するacanthaの二語からなっています。

晩秋から冬にかけて、赤色やオレンジ色の小さな実を、枝に密集して付けます。日本で栽培されているのは、主に赤い実をつけるトキワサンザシとヒマラヤトキワサンザシ、および黄色の実をつけるタチバナモドキの三種です。また、日当たりの良い場所を好み、枝の伸びる勢いが強いのが特徴です。

我が家に咲くピラカンサも、地植えにしている為、枝がすぐに太く、放射線状に伸びてしまっています。今は、赤い実がたくさん付いているので、ヒヨドリが実を食べに来ているのか、遊びにきます。



今度、クリスマスやお正月に生け花に使ってみたいと思います。

(広報委員 伊藤茂美)

お気に入りの8店舗を食べ歩き

つまみ食いウォーク

しながわ観光協会主催による「2013つまみ食いウォーク」(共催・品川区および品川区商店街連合会など)が、11月9日(土)に開催されました。

このイベントは、参加店舗の店先で、試食品をつまみ食いしながら商店街を散歩しようというもの。今回は「荏原中延・旗の台コース」と「戸越銀座・戸越公園コース」

スポーツ感覚のごみ拾い！
チーム対抗G-1グランプリ2013
地区委員会主催秋の企画「チーム対抗G-1グランプリ2013」が、11月24日(日)に行なわれました。集合場所となった小山小学校には、23チーム・101名が集結し、白熱した戦いを繰り広げました。



ごみを拾い終えた子どもたち

参加者全員で、総量約7キロのごみを拾う事が出来ました。ご協力頂いたPTAの皆さま、ありがとうございました。

小山・2位ヨミミチーム(小山小)・3位Newブルーマン(小山台小)・4位元祖くり松ザマイイチーム(小山台小)・5位ゴミーズ3チーム(小山小)が入賞。

町会紹介

小山1丁目町会

今を遡ること百年余り。大正時代の品川区は、工場の創設が盛んでした。この地に、東洋酸素(株)の工場が建てられたのも、大正9年のことです。

やがて、第二次世界大戦勃発。本土空襲が激しくなる中、火災が発生した際に重要工場や鉄道の延焼を防ぎ守る為、防空空地が指定されました。当町会内でも、目蒲線(現在の目黒線)に沿った地区と東洋酸素(株)周辺が指定され、防火帯にかかる建築物の建物疎開が実施されることになりました。

東洋酸素(株)が大陽日酸(株)へと名前が変わった今日では、大陽日酸本社ビル前庭を当町会の災害時一時集合同所として提供され、被災者の安全を確保する重要な場所になっています。ほかにも、同社は平成19年からは後地小学校において「キッズ理科教室」を開催。今年も学校公開日の10月5日(土)に催され、子供たちだけでなく、保護者や近隣の住民の方々も一緒に楽しめる機会となり、地域との関わりに積極的に取り組まれています。



災害時一時集合同所(大陽日酸本社ビル前)

「この地は、日本の産業ガス発祥の地ともいえる歴史上ゆかりの深い場所です。今後とも良き企業市民としての自覚を持ち地域に貢献したいと思っています」とのこと。

なお、大陽日酸(株)は当町会顧問も務められるなど様々な場面で活躍されています。

(広報委員 河原マサ江)



8店舗を次々と食べ歩きして、ゴールの戸越南公園に到着したのは午後1時すぎ。参加

コースは、ここから平和坂通り商店街を経由して国文学研究資料館跡地に開園した「文庫の森」を抜け、宮前商店街、戸越公園中央商店街へと続きます。距離にして3キロメートルほど。今回協賛している参加店舗はたい焼き、おでん、かまぼこ、精肉、青果、ベーカリー、和菓子、中華など多種にわたって四十数店舗。参加者は、お好みの店先に立ち寄って「つまみ食い券」を切り離し、おしゃべりをしながら試食を楽しんでいます。人気の品が並ぶ店には長々と行列ができていました。



遠慮がちな試食もこの日は堂々と

者たちの表情は、そろって満足気の様子でした。(広報委員 石井恒男)

「秋の自然教育園」をウォーキング!

健康づくり推進委員会

10月23日(水)、目黒の自然教育園を散策した。台風の接近で心配された天気も、時折薄日も出、気温18度前後、風もなくウォーキング日和となった。

参加者74名。教育園の方が説明する本園の歴史に耳を傾けた後、4班に分かれ、教育ボランティア先導のもと、色々な草花の説明を聞きながら散策を楽しんだ。太陽、水の恵み、鳥や虫等、絶妙な生命のつながり、調和によって二種類以上の植物が自然のままに生息している。「八つ手の葉が一枚々々光が当たるように譲り合っている姿」「黒い固いドングリのようなムクロジ」「ミミズやダンゴ虫は落葉の掃除屋さん」等、小宇宙の不思議さに感動した。推進委員の一句より、挨拶を返してくれるスキの穂(荏原第一地区代表 大高一造)

◎各ご家庭に配布しております。1部ずつお取り下さい。

次号『まちかど』は、平成26年1月20日(月)発行の予定です。

「まちかど」は、品川区役所ホームページからご覧いただけます。 <http://www.city.shinagawa/tokyo.jp/>

古紙を配合した紙を使用しています